

高砂歴史ツアー 3

高砂は重要な漁業の中心地であり、塩や米などの物資の集散地であり、多くの地元の商人がこの貿易で富を築きました。商売は多く加古川舟運に頼っていました。何世紀にもわたる町の繁栄は、今日でもその建物に見ることができます。

申義堂

19 世紀初頭に設立された教育機関です。姫路藩家老・河合寸翁の勧めにより、庶民の教育を目的として創設されました。申義は「正義」と（英語では）訳され、この学校が育もうとした儒教の理想の一つです。堂は「ホール」を意味します。教師には、商売をしながら高度な儒教の教育を受けた町民が選ばれました。多くの学者や文学者が高砂を訪れ、高等教育や文化に対する地域の関心と意欲が高まりました。

生徒たちが申義堂に入学したときの年齢は不明ですが、おそらく 10 代前半か半ばだったと思われます。ほとんどが高砂住民の子どもたちで、入学前に寺子屋での学習を完了する必要がありました。学びたいという意欲だけでなく、参加するための経済的手段と時間も必要でした。指導は休日や特別な日を除き、毎日早朝から正午まで行われました。

この学校は、徳川時代の藩制が廃止され、それに代わって県が設置された 1871 年に閉校になりました。児童教育は高砂小学校に引き継がれました。申義堂は 2012 年に元の姿に基づいて再建されました。修復資金は地元の篤志家らから提供されました。

建物は木造平屋建てで、畳敷きの大部屋と奥の 3 部屋、正面の縁側から構成されています。市の文化財で、土・日・祝日の午前 10 時から午後 4 時まで一般公開されています。

三連蔵

これは明治初期（1868～1912 年）に、祝い事に使われる食器などを保管するために建てられた 3 棟の木造倉庫で構成されています。蔵は隣り合って並び、基礎は石積みで、外壁は焼杉板で覆われています（壁面をわずかに焦がすことで防水性と耐久性が向上しました）。高品質の白漆喰、窓の銅製のよろい戸、伝統的な瓦屋根もこの建物の特徴です。三連蔵は個人所有のままで、兵庫県の重要景観建造物に指定されています。

花井家住宅

花井家は、江戸時代から昭和初期にかけて（1945 年～1989 年）、加古川舟運の利便性を生かして肥料商を営んでいました。敷地は主邸、明治後期に建てられた 2 階建ての建物、土蔵からなります。

2011 年からは高砂地区まちづくり協議会の拠点として活用されています。この拠点はコミュニティホールとショップで構成されており、どちらも映画のポスター、古いレコードのジャケット、地元の祭りの写真など、1900 年代初頭の歴史的工芸品で飾られています。週末はカフェとして、水曜日は染色ワークショップ（ワークショップは要予約）としてオープンしています。この邸宅は国の登録有形文化財に指定されています。

大崎家住宅

この物件は、加古川舟運を利用して木材卸売業「大崎商店」を営んでいた大崎家の隠居邸として、1898 年から 1912 年にかけて建てられました。高砂の町家によく見られる 2 階建ての建物です。正面に格子窓があり、垂木をむき出しにして両側にうだつを付けた切妻屋根が特徴です。国の登録有形文化財です。